

kore ~ これから ~ kara

いっしょに描く まちのこれから くらしのこれから


VOL. 8 2010 SPRING

あなただけの景色を、
感じてみよう。

■ 特集

私たちのまちのすがた、
「景観」について考える

都市局まちづくり広報誌

 さいたま市

■ 特集

私たちのまちのすがた、「景観」について考える

まちのたたずまいを感じてみよう

私たちが何げなく見ているまちの風景。そこには、目に映る自然や建物だけでなく、ふとした瞬間に感じる印象やそれぞれの思い出なども、深く関わっているのではないのでしょうか。そこで今回の特集は、まちを見つめることにスポットを当て、「景観」について考えてみました。



◀秋山さんの作品のひとつ「歩行者通路予定地」は、大宮ソニックシティオープン前年の、昭和62年のまちの様子を描いたもの。「普段どれほどの風景を見過ごしているのか、絵を描いているとわかります」。切り取られた「今しかない風景」に想いを込めて、これからもまちを見つめます。



秋山静子 氏
(あきやま・しずこ)
■プロフィール
1940年埼玉県旧大宮市生まれ。旧大宮市立桜木小学校、桜木中学校、県立高校卒業。武蔵野美術学校を経て、1964年太平洋美術学校卒業。著書には「ふるさとを描く大宮」などがあり、大宮市文化賞をはじめ数々の賞を受賞。

を呼んだのでしょつね。私もうれしかったです」と振り返ります。

秋山さんにとっての景観とは、「ぬくもりがあって、人の心を引きよせるもの」。個性的でありながらまちに調和し、景観を大事にするという「思いやり」をもつことが、活き活きとしたまちなみに結びつくと感じています。

「お店のディスプレイなども、大切な景観の要素。私たちがおしゃれを楽しみよつに、まち全体ももっとおしゃれをしてほしいですね」と話します。

「景観とは、ぬくもりがあって人の心を引きよせるもの。まちももっとおしゃれを楽しんでほしいです」

まちの中でイーゼル(画架)を立て、市内の風景を30年間描き続けている画家の秋山静子さん。キャンパスに広がるのは、時の流れとともに、やがて姿を変えてゆくまちなみです。「目の前にあるこの景色、この色は、今この瞬間しか描けません。こうした景観を、私は描き残したいんです」と秋山さん。まちを描き続けるうちに、自然や建物だけでなく、歩く人の姿や様子も変わっていくことに気づきました。「移り変わりを自分の目で見つけて描いてきたことで、人とのつながりも生まれ、私は人生を何倍も楽しんでいるなあ」と感じるそうです。

秋山さんが本格的にまちの絵を描き始めたのは昭和58年。生まれ育った大宮駅周辺が、新幹線の開通とともに劇的に変化する様子を見て、「まちの変化を描き残してみよう」と思ったのがきっかけです。ある個展で大宮駅前や操車場などの絵を展示したところ、お客様から思いがけなく大絶賛を博しました。「見慣れたまちの風景だったからこそ、『私たちが住むまちなみも絵になるんだ』という共感

「景観って、そもそも何だろう？」

日々の生活の中で、心の豊かさやゆとりを求める機会が増えてきていませんか？それらは、美しい景観や心安らく景観に出会うことでも育まれるものかもしれません。ここでは、そんな「景観」について、いろいろな視点からご紹介します。



音や匂いも「景観」のひとつ!?

皆さんは、「景観」という言葉をどのようにとらえていますか？ちよつと馴染みがないかもしれませんが、一般的には風景や景色と同じように使われています。しかし、もう少し広く考えると、目に見えるものだけでなく、音や匂いも含めた一体的な環境としてもとらえられるのです。

たとえば、目を閉じて印象に残る景色を思い返してみてください。

美しい「景観」は一日こつこつ成らず！

美しい景観は、そこに暮らす人や働く人だけでなく、訪れる人の心も豊かにします。そのためには、ここで生活するすべての方が「ま

岩槻らしさが感じられる公園を目指して

岩槻区役所のすぐそばに、素敵な公園が3月に完成しました。「公園づくりを通して、地域の輪や絆が感じられるようになりました」と語るのは、太田1丁目自治会長の石川公一さん。公園が整備されることを機に、自治会や住民が「城下町と人形文化など、岩槻らしい景観が感じられる公園にしたい」と考え、市



自分たちで「景観づくり」をやってみました!

愛着と誇りのもてる公園を創る！旧秋葉邸裏小路公園ワークショップの取り組み

とともにワークショップを重ねました。このワークショップとは、地域の人たちが参加し、意見や提案をまとめる共同作業の場。公園内の枯山水の配置やユニークな遊具、案内板や記念碑など、一つひとつ検討を重ねて創り上げたのです。

「まるで、自分たちの庭ができたような気持ちです」と語る

後世に残る景観を自分たちで守り育てる

石川さん。10年以上前から「景観形成勉強会」を立ち上げ、岩槻の歴史や景観について勉強してきた成果が活かされました。「地元、そして日本の良い文化を、この公園から子どもたちに伝えていきたい」。このような願いが込められています。



ちはみんなの共有の財産」と考え、協力し合いながら景観を創り、育て、守り、そして次世代につなげていくことが大切です。このことによって、まちにますますの愛着と誇りを持ち、それがまちの魅力を支るに高めることにつながる。こうした循環が、これからのまちづくりには求められているのです。

たとえばこんな都市景観

歴史文化景観



(見沼通船堀の開門開閉実演)
歴史あるまちなみや街道など、有形の歴史文化・財産がつくる風景

自然景観



(見沼田んぼでの田植え)
自然のままの山崎川、人の手によって生み出された農地などの風景

暮らしの景観



(与野公園の「ぼらまつり」)
人々の暮らしが見せる活動や祭りの様子、懐かしく浮かんでくる心象風景

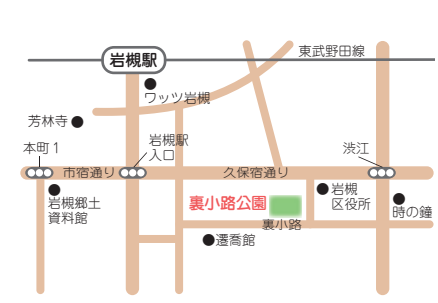
市街地景観



(武蔵浦和駅周辺のまちなみ)
住宅や商業施設をはじめ、公園や道路などで形成されたまちの風景



▲入口や滑り台など、至る所に地域の方の想いが注がれた岩槻人形が。その愛らしい姿が、訪れる人を和ませます。



▲「雞めぐり いにしへの水辺」をテーマに、風情ある枯山水が配された「旧秋葉邸裏小路公園」。今後も、住民自ら参加し、協働により管理を行っていきます。



塚原 美樹子さん

輝く少年たちは、私の宝物

撮影スポット：県立常盤高校グラウンド

自宅の隣の常盤高校のグラウンドで、小学生たちが日曜日にサッカーの練習をしています。澄み渡る青空の下、無心にボールを追いかけるいきいきとした姿は、若さに溢れ、漲るようなパワーを感じる瞬間に出逢えるひとときです。引き込まれるように見つめているうちに触発されて、いつの間にか元気をもらっているのです。サッカー部のマネージャーをやっていた中学時代の自分と重なり「未来のサッカー選手たちよ！頑張って!!」とエールを送りたくなってきました。私にとって…この時間…この場所こそが、自分を奮い立たせてくれる明日への活力であり、思いつき笑顔にしてみらえる大好きな風景なのです。



korekara

読者モニターさんと
私たちのまちを見つめてみました。



あなただけの “なんかいいね”

そんな景色を探してみませんか？

「景観」をもっと身近に感じれば、
毎日の生活がちょっと素敵になるかも…？
そこで、このコーナーでは、「korekara」の読者モニターの皆さんに、身の回りの“なんかいいね”と心惹かれる景色をとらえ、その想いを綴っていただきました。



牛久 亜紀子さん

オレンジ色に輝くライトの 夜景は、“ホット”させます

撮影スポット：北区吉野町の陸橋の夜景

私の勤務地からほど近くの、大正製薬脇の産業道路の橋の夜景は、オレンジ色に輝くライトが暖かく、仕事帰りの私を安心させてくれるホットとした景観です。日々のざわざわした日常を忘れさせてくれそうな感じがします。景観というのは、人それぞれ感じ方や捉え方が異なります。私自身がパッと見て「この景色いいなあ」「また見たいなあ」という感性を大切にしていき、私が選んだ「ホット」できる景観をわがまち・さいたま市の中でたくさんストックをしていければいいなあと思います。ふだん何げなく歩いている場所も、少し気にしていれば、きっと素敵な「さいたま市」を改めて発見をし認識できると思います。輝くさいたま市を皆さんで見つけましょう!!



今回の取材にご協力いただいた「korekara」読者モニターの皆さん

■松本浩邦さん 緑区在住 (31歳・会社員)

まちづくりにはそれほど関心はなかったのですが、広報誌の制作に携わりたくて、この企画に参加してみました。子育て中なので、子育て支援にとっても興味があります。このまちは子育て世帯にどれだけ優しいのか、改めて認識できればと考えています。

■塚原美樹子さん 桜区在住 (50歳・主婦)

小さいころから、読むことと書くことが好きで、今は詩も書いています。ときには新聞にも投稿。市の賞にも入選しました！いろいろな方に会って、考えや意見を交わすことで刺激になり、自分自身も変わるかも、と思って、今回参加をしました。

■中山好子さん 浦和区在住 (65歳・主婦)

「korekara」は、市の広報誌なのにおしゃれ。普段住んでいて感じたことを誌面に活かしたくて、モニターに応募しました。住み良いまちのためには、保守的な考え方じゃなく、いろんな価値観が大切なことを、自然な形で伝えていければと思います。

■牛久亜紀子さん 中央区在住 (34歳・会社員)

物怖じしないで、人と交流するのが好きなんです。考え方や年代の違う人たちと挑戦してみたいと思い、参加を希望しました。以前住んでいた鴻巣市と比べると、さいたま市は少し緑や星が足りないかな。けど、暮らしやすい都会、というイメージです。



日常の何気ない景色を見つめてみたら… こんなことに気づきました。

「人とのつながりが、
心に残る風景を
生むんですね」(松本さん)

私の思い出深い風景にはどれも、そこで出会った人の姿が思い浮かびます。人とのつながりを大切にしまちづくりが、これからは大事だと思っています。

「身近なところにも、
こんなに心安らく場所が
あるなんて」(中山さん)

名所旧跡ではなく、意外に身近なところにも、きれいで心安らげる場所があることに気づきました。素敵なところをもっと探して、皆さんにお知らせしたい!

「まちへの愛着を、
一人ひとりがもつことの
大切さを感じました」(塚原さん)

このさいたま市のことを一人ひとりがちょっとでも考えてみて、できることからコツコツと始めること。そんな積み重ねで、きっと素敵なまちになるはずですよ。

「景色ひとつで
人の気持ちを癒せるんだ、
と思いました」(牛久さん)

周りの景色なんて今まで意識していませんでした。1日が終わった帰り道、「明日も、ホッとした気持ちでこの景色を見たい」と思うようになりました。

身の回りの
景色への
気づき

+

清掃や緑化
などの
身近な活動

+

周辺環境と
調和する
まちなみ形成

=

心地よい生活空間
まちや暮らしへの
愛着や誇り

「景観計画」など、景観のまちづくりのお問い合わせ
都市計画部 都市計画課 TEL 048-8229-1404

「景観のまちづくり」は、
まちの魅力がアップする!

「景観」は決して堅苦しいものではありません。ふとしたときに皆さんも、身の回りの景色を切り取ってみてください。一見無造作に見える道路や建物、植栽なども、何らかの意味があり、理由があるもの。いつもは見過ぎてしまっまちなみも、少し見え方が変わってくるかもしれません。

実はこうした気づきこそが、「景観のまちづくり」の大切な一歩なのではないでしょうか。一人ひとりの気づきと、ゴミ拾いや緑化などの、まちを大切に作る身近な行動の積み重ねで、このまちの景観は育まれ、貴重な財産として受け継がれていくはずですよ。

さいたま市では、「景観表彰」「景観絵画コンクール」などによる啓発を行っており、今年度「さいたま市景観計画」を新たに策定するなど、優れた都市景観形成のための、さまざまな取り組みを進めています。

魅力的な景観は、心地よい生活空間を創り、まちのイメージアップにつながります。皆さんもいっしょに「景観のまちづくり」、始めませんか!



松本 浩邦さん

大切な人がいる風景が、 色彩を持った景観になる

撮影スポット：仕事帰りのバス停から見た風景

私が好きな景色は、私の帰りを待つ妻と娘の姿、それを中心とした周りの景色が想い入れのある景観です。

ひとつの景色を好きになるのは、その場所に「何があるか」ではなく、「誰がいるか」で決まると思います。家族、仲間、恋人、それぞれの大切な人と過ごした場所、そこで見た景色が想い入れのある景観になっていくのです。仕事から帰ってくる私を待つ妻と娘には優しい想いがあり、その想いが私に伝わり、日常のありふれた景色が鮮やかな色彩を持った景観になっていくのです。大切な人と一緒に永く住むことができるまちをつくること、それが一番大事なことなのではないでしょうか。



中山 好子さん

堂々とした桜を見ると、 「何とかなるなあ」と思います

撮影スポット：長覚院（浦和区領家）の境内

花の季節はどきどき人がいっぱいだけれど、大きな道路から少し奥に入ったところにあることはお寺の境内で、本当に静かな雰囲気です。お地藏様の赤い前だれの前のベンチにかけて、満開の桜の木を見上げ、4月の灌仏会（お釈迦様へ甘茶をかけるお祭り）の案内などをぼんやり見ていると、「悩みなんで何とかなるなあ」と、とても気持ちが落ち着いてきます。そんな私のことを、お寺の方もそっとしてくださっているようです。

そのうち、木崎小学校の子供たちの下校時間になり、元気な子どもたちの声が聞こえ、姿が見えると、子どもたちの未来がまぶしくて明るい気持ちになるんです。



まちづくり Index

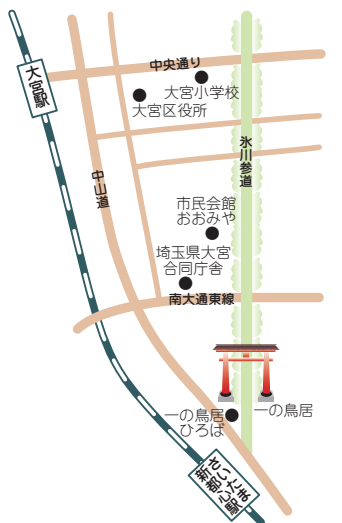
わがまちの緑の杜のトンネルを
ゆつくり歩いてみませんか？

～氷川参道の歩車分離の取り組み～



ケヤキ並木が美しい氷川参道は、大宮二十景のひとつ。氷川神社に向かう一方通行とし、歩道の整備工事を実施。車両が停められないよう、随所に車止めも設置されたことで、多くの人が安全に散歩を楽しめる場所となりました。

交通対策と樹木の保全で
緑豊かで安全な歩道に



武蔵国一の宮氷川神社の参道は、さいたま新都心駅すぐ近くの一の鳥居から続くケヤキ並木です。しかし、以前から違法駐車が多く、また、沿道の樹木の保全も必要だったことから平成14～21年にかけて、一の鳥居から中央通りの約1.1kmの区間で、歩道と車道の分離工事を実施。6mの車道幅を3.5mにし、石板敷き歩道を新設することで、安全で緑あふれる心地よい参道となりました。「緑と文化・歴史の環境軸」として「大宮駅東口都市再生プラン」に位置づけられ、地域のまちづくりを進める上で大切な存在となっています。

参道の未来とまちづくり
のため多くの人が活動中



▲さいたま新都心から眺める大宮駅周辺の風景。まっすぐ神社に向かって延びる緑地帯(氷川参道)は、都市と自然をつなぐネットワークとして、まちづくりに活かされています。



▶工事前の氷川参道。歩道がなく、加えて違法駐車や交通渋滞が絶えず、歩行者にとって危険な状態でした。

都市と自然をつなぐ
緑のネットワーク

氷川神社の門前町として栄えてきた大宮は、今もさまざまな都市機能が集積する地域です。そして現在、さいたま市では、市の都心にふさわしい地域として再構築するため「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」の策定に、地元や専門家と一体的に取り組んでいます。

氷川の杜の保全活動もそのひとつです。かけがえない自然と歴史、都市が調和することで生まれる豊かな都市生活。それを守り、育て、継承していくような、快適なまちづくりを目指す活動が続けられています。ご家族や友人と、氷川参道をゆつくり散歩してみませんか？



▲「まちづくり推進協議会」によるシンポジウムの開催など、さまざまな視点からまちづくりの検討を行っています。



▲協議会の会員や一般市民など、120人あまりが参加して樹木調査を実施。合計約700本の樹木のデータは、今後の保全方策の貴重な基礎資料となります。

以前から活動をしていた「氷川参道を考える会」に、地域の自治会長や住民が参加し、平成7年に「氷川の杜つるおいのあるまちづくり推進協議会」が発足。氷川参道の未来と周辺のまちづくりを推進するため、行政とともに勉強会やワークショップ、交通量の調査を行うなど、さまざまな活動をしています。平成14年には、樹木一本一本について調査を開始。四季折々の参道の風情を楽しみながら、樹高や枝張りなどの測定や健康状態を観察しました。このデータは、今後の樹木の保全方策やまちづくりを考える上で、貴重な資料となっています。

■氷川参道について
都心整備部 氷川参道対策室
TEL 048-646-3122

■大宮駅周辺地域戦略ビジョンについて
都心整備部 大宮駅東口まちづくり事務所
TEL 048-646-3289



編集後記

「景観という言葉を目にしても、ピンとこない」「響きが硬くて、なんだかお役所的なイメージ」…今号のテーマである「景観」について、読者モニターの方から寄せられた声を聞き、ハッと思い直しました。仕事上ではなにげなく使う言葉や考え方も、市民の皆さんには、どれほど伝わって、理解してもらえているのだろうか…?

そこで今号では、より市民の視点を大事にした誌面を目指し、モニターさんに誌面作成へ直接参加していただきました。「korekara」では初めての試みで、試行錯誤をしつつも、個性的な皆さんと楽しく和やかな雰囲気の中で進められました。「もっと濃い作業を任せてほしい」「年間を通じて、よりたくさん関わりたい」最後にはそんな声もいただくことができ、いろいろな面で課題や反省点などはあったものの、とても充実したものになったと、今ではうれしく感じています。そして、次号以降はどのようにして、モニターさんとともに「まちづくり」を伝えていこうか…、そんな「これから」について、想いを巡らせているところです。

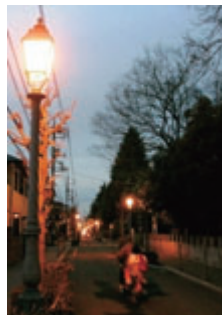
(中野・鳥山・堀田)



▲モニターさんとの和気あいあいの作業風景



▲表紙の撮影のひとつコマ



▲編集部お気に入りの「景観」(北浦和公園の脇道の夜景)

■「読者モニター」募集中!

「korekara」では、皆さんの声を反映させた誌面づくりを目指し、アンケートや誌面作成などにご協力いただく「読者モニター」を募集しています。ご希望の方は、「モニター登録希望」と明記の上、「korekara」のご意見やご感想に、住所・氏名・年齢・電話番号を添えて、5月31日までに下記あて先までお送りください。モニターの方には、年間の活動の謝礼として、1,000円分の図書カードを差し上げます。

あて先: 〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4 都市総務課あて

TEL: 048-829-1394 FAX: 048-829-1979

Eメール: toshi-somu@city.saitama.lg.jp

■ホームページへアクセスを!

『「korekara」WEBサイト』では、誌面の紹介のほか、編集のこぼれ話やまちづくりに関する話題などを随時更新中。ぜひご覧ください!



さいたま市 korekara

検索